

2025 年度埼玉親善大使レポート

地域活躍コース 金子恵太郎

1. 留学先で学んだこと

私が留学したのは、フランス、パリ近郊のサンジェルマン・アン・レーという街に位置するサンジェルマン・アン・レー政治学院です。私自身が所属する都内の四年生私立大学の交換留学プログラムを通じて、本学校に一年留学することが叶いました。

サンジェルマン・アン・レーという街は、パリの中心地から電車でおおよそ 50 分ほどの典型的な郊外都市です。この点は、東京都に対しての埼玉県との存在と共通しており、埼玉県に在住する私としては、日仏の郊外都市を比較するという点においても、興味深い経験を得ることが出来ました。サンジェルマン・アン・レーの街自体の規模は小さく、街並みも典型的なヨーロッパの古風な感じで落ち着いているのですが、その一方で毎朝毎晩、世界都市パリへ労働者忙しを送り出し、迎えるベッドタウンとしても機能しています。街の魅力としては、駅前の巨大公園からはサンジェルマン・アン・レーの街が高台に位置していることもありパリの街を遠いながらも一望することが出来ます。また、フランス国王ルイ 14 世の生誕地、「月の光」を作曲したクロード・ドビュッシーの生家としても有名です。さらに、欧州最強のサッカークラブ「パリサンジェルマン」練習場や育成機関もこの街に位置しており、魅力の尽きない街であった印象です。それに加え、たくさんの中等教育機関や位置することで街には若者が多く活気が存在します。



※サンジェルマン・アン・レーからのパリの眺め

私は日本で在籍する大学で政治学および国際政治学を専攻しています。私の学習範囲は多岐に渡り、「民主主義とは何か？」などの政治理論的なものから、実際の国際政治における外交や紛争、条約などについても学んできました。今回の留学プ

ログラムで私が留学したフランスのサンジェルマン・アン・レー政治学院というのは、政治を学ぶことに集中した専門学校のような学校です。この政治学院というのは、フランスで知らない人がいない程のエリートが養成機関で、入学も非常に困難なことで知られ、多数の著名人を輩出しています。現在のフランス大統領であるエマニュエル・マクロン氏も本政治学院を卒業しています。よって、留学先を選定する過程において、日本で政治学・国際政治学を専攻する私にとってこれほど完璧なフィットはないと思い、本学校を第一志望とし無事留学を果たすことが出来ました。

2. 親善大使としての PR 活動

私は、留学先大学の学内、学外の両方で埼玉県 PR 活動を行いました。大学内では、フランス語の言語の授業内で、パワーポイントなどを用い、各自がフランス語で作成した資料を使い、プレゼン大会を行う機会が多数ありました。プレゼンテーションのテーマは、学生に任せられることが多く自由度があったため、そのような機会があるたびにそれを利用して埼玉県の知名度・魅力を伝える努力をしました。世界からフランスにきているクラスメイトも自分のホームタウンや国をプレゼンすることもあり、互いにそれぞれの故郷について拙いフランス語で語りあいました。特にフランスでは日本のアニメ・マンガ文化が浸透しており、熱烈なファンが多数存在します。私のフランス語の担当教員はジブリのファンだったので、私が「トトロの森」について紹介した際は興味津々といった感じでした。



また、学外で行われる国際交流パーティーやホームパーティーには、日本から持参した狭山茶のセットなどを持っていき、参加者たちに披露しました。セットの中にはティーバッグのお茶や、ようかんなどの和菓子などが入っていたのですが、ようかんは評判が悪かったです。特に見た目で嫌悪感を抱いた人が多かったようです。しかし中にはお茶と一緒に食べるとおいしいという感想をくれた人もいました。当然、このようなお土産を持参すると、「君の出身は？東京なの？」といったような会話が始まり、互いの地元トークをすることもありました。前述したように、私の住んでいたサンジェルマン・アン・レーはバリ郊外の街で、私の住む埼玉南西部と都市としての機能は似ています。なので、「大学までは実家から通っているの？」「日本の大学生は寮に住むの？」「日本の郊外はどんな感じ？」のように互いの母国・故郷の会話を楽しみました。その際に、少しでも埼玉のことを知ってもらえたらと思い、「ベッドタウンとしての埼玉」、「観光地としての秩父・川越」などを積極的に写真をみせながら語ったのは良い思い出です。彼らが、いつか来日する際に東京、大阪、京都だけでなく、埼玉にも行ってみようかなと少しでも思ってくれたら私が親善大使として今回の留学に支援を頂いて臨んだ意義があるかなと思います。

3. おわりに

これまで記述してきたように、私は今回の留学を通じて本当に貴重な経験と知見を得ることが出来たと確信しています。私は広大な世界と広がる自分の可能性を学ぶことが出来ました。自分の人生において非常に大切な歳月を過ごすことができたのは、言わずもがな支援をくださった埼玉県様のおかげです。この貴重な経験を全て自分で得たものと勘違いせずに、常に今回の留学を支えてくださった全ての人や組織の皆さまのご厚意をしっかりと胸にきざみながら生きていきたいと思っています。今回の留学に際して、支援を頂きまして誠にありがとうございました。

自分の未来は不確定なものではありますが、自分が得た知見や経験、学びを今回の留学を支えてくださった皆様と埼玉県に還元していきたいと思っていますので、どうかこれからもよろしくお願いします。



※夕暮れ時のリュクサンブール公園（パリ）